

1 基礎的な学力を向上させる

- ・学習指導要領に基づいた評価規準達成の見届けと補充
- ・主体的に学ぶ授業〈仲間とつくりあげる授業〉
- ・学力学習状況調査等の分析による実態に応じた授業改善
- ・家庭学習の充実(学年×15分の定着と家庭への啓発)

重点	具体的目標	記号	学校説明(進捗状況)	改善策(次年度への方途)	学校関係者評価委員会から	評価
基礎的な学力を向上させる	① 単元の確認テスト80%達成 学力学習状況調査の平均点を全国平均並みにする。 ◆学力テストの分析、実態に応じた授業改善	B	○単元確認テスト未達成者は補習、合格まで再テスト実施「わからない子をわからないままにしない」 ○全国学調 国語・算数 全国平均値には達しなかった。 ・少人数指導2~6年(昨年度は4~6年)	引き続き、算数の研究を中心に基礎基本の充実とB問題(発展問題)への対応を行っていく。	大学入試で、考えて文章を作る形式に変わってきている。「わかるようになりたい」という意欲を持たせる工夫をしてほしい。	B
	②教師の相互評価で「B問題への対応を意識した授業ができていないか」に対して、「概ねできた、できた」の割合が80%をめざす。 ◆算数科の授業研究 基礎的、基本的な学力を活用し、仲間と学びを深め、広げる児童の育成	B	○学びを深める交流 ・本時において児童に付けたい力を明確にした課題とまとめ ・ペアや全体交流後に仲間の意見をノートに書き加える指導 ○確かにするまとめ ・学びの深まりを実感できる終末 ・その日の授業で学んだことを本日の家庭学習とつなげて行うことを明示する。	全学年が算数の研究授業を実施し、授業改善に取り組んだ。夏休みには、指導改善を意識した略案を作成し、話し合いをもった。	子どもたちにとって魅力のある授業を工夫していきたい。	B
	③主体的に学ぶ活気のある授業 児童アンケートの「授業がよくわかる(国・算)」が85%にする ◆姿勢、話す・聞く・挙手などの学習規律の確立 〈仲間とつくりあげる授業〉	A	・主体的に学ぶ学習集団づくり「仲間とつくりあげる授業」を推進する。 ・各学期の終わりに、全学級の授業を参観し、「仲間とつくりあげる授業」の観点から、児童に成果と課題を示していく。	「授業がよくわかる」児童アンケート87% 学期の終末期に、全学級「仲間とつくりあげる授業」実施	クラスによって、話す声の大きさに差がある。原稿を読まずに発表できる子を指すためにクラス間、学年間に差がないように全校巻き込んだ取組をする。	A
	④児童アンケートの「自分で計画を立てて家庭学習を行っているか。」に対して、決まった時間取り組んでいる子どもの割合を85%以上にする。 ◆学年×15分の定着と家庭への啓発	B	○家庭学習がんばり週間 学年×15分の取組(強化週間を年2回) ・保護者を啓発し家庭を巻き込んだ取組を工夫する。(同じ時間・同じ場所が当たり前に) ○放課後学習の実施(地域講師) ○宿題内容を検討し学力向上につながる家庭学習内容	「自分で計画を立てて、家庭学習や宿題をしている」は77%で目標値には達しなかった。家庭への啓発を引き続き行いながら、「学力が付く家庭学習」に取り組む。	宿題のやり方を変えたら、見届け返すことで、自分から進んでやろうとする気持ちと、力を付けたい気持ちを育む。 予習・復習の内容ややり方を丁寧に指導していく。	B

【学校関係者評価を受けての学校の改善策】

- ・引き続き主体的に取り組む子どもを育てるために、仲間とつくりあげる授業を推進していき、学級差・学年差をなくしていく。
- ・夢と希望をもち、その実現に向けての学習であり、家庭学習であるという、意識をもたせていく。

2 仲間や自分の「よさ」に気付かせ、思いやりの心を育てる。

- ・地域学習への参加
- ・信頼関係を基にした、相互評価、「よさ見付け」の充実
- ・だまってゴミ0掃除
- ・明るくさわやかな挨拶を広め温かい人間関係をつくる

2	具体的目標	記号	学校説明（進捗状況）	改善策（次年度への方途）	学校関係者評価委員会から	評
ふ る さ と 大 垣 科 ・ 道 徳 、 学 級 活 動	①地域学習への参加率80%以上 ◆ふるさと大垣科の完全実施と青墓校区の地域学習の充実	B	○地域と連携を図りながら「ふるさと」を愛する子どもを育てる。 ・地域探検で地域の史跡・文化遺産を知る。 ・各学年で体験的な活動を取り入れたふるさと学習を実施する。 ・青小まつりの地域への開放。	地域学習満足度 68% 積極的に地域行事への参加を促していく。 ・クリーン活動 ・福祉運動会 ・朝長公供養（6年）	青小まつりはふるさとへの愛着心が持てる行事なので引き続き伝統としてつないでいきたい。年末の円興寺の鐘つきにたくさんの児童が参加していてうれしい。	B
	②相互評価や「良さ見付け」の充実 児童アンケートの「自分には良いところがあると思う。」と回答する児童78%以上。 ◆よさ見付けを大切にした学級経営 「いじめ0宣言」とぼかぼか言葉の意識付け 「特別の教科 道徳」の実践	B	「自分によい所がある」69% 「仲間のよさをみつけようとしている・先生はよく褒めてくれる」の項目が低い。 ・各学級のよいこと見つけや教師による賞賛の継続 ・青墓小いじめ0宣言の定着 ○教頭によるハートフル放送で、よさの価値付けをしている。 ・道徳的心情を育み、道徳的实践力を身に付ける。	全教育活動で、子どものよさを伸ばしていく教育を行い、自己肯定感をもった子どもを育成する。	中学校も自己肯定感が低いことで、課題としてあげてみえた。中学の人権宣言に触れる機会があるとよい。発達段階に応じて、自己肯定感を育む指導を引き続き行いたい。	B
	③だまってごみ0清掃 児童アンケートで「黙って自分の掃除場所をきれいにしている」と答える児童の割合が85%以上。 ◆美しくする掃除	A	○だまって美しくする掃除 「だまって自分の掃除場所をきれいにしている」は82% ・掃除のやり方指導(特にトイレ掃除) ・愛校心の育成 ・全校の廊下の汚れをとる	児童の委員会からの働きかけで、児童が中心となって、だまってごみ0掃除を推進していく。	継続して、伝統にしていきたい。	A
	④明るくさわやかな挨拶 アンケート「進んで挨拶ができているか」に対して、児童85%、保護者80%、職員各80%以上めざす。 ◆「いつでもどこでもだれにでも」 ◆あいさつロードの取組	B	児童アンケート 75%、保護者 81%、職員 50% ○児童会による各学年あいさつロード ○地域と保護者との連携	学校では、挨拶の意味づけや価値付けを行う。大人がまず手本を示すことで、あいさつのできる子を目指していく。	学校内と地域では姿がちがうところがあるが、何も手立てをうたなければ変わらない。手立てを考え、取り組んでいく。	B

【学校関係者評価を受けての学校の改善策】

- ・自己肯定感を育むために前教育活動をあげて推進していく。

### 3 危機意識をもち、命を守る教育を充実させる

- ・体力テストの分析に基づいた課題点克服のための指導
- ・校内安全体制の見直し

- ・命を守る訓練の計画的な実施
- ・登下校時における交通安全の取組と地域の協力

III	具体的目標	記号	学校説明（進捗状況）	改善策（次年度への方途）	学校関係者評価委員会から	評価
体力づくり・防災安全教育	①スポーツテストのシャトルランの平均値が、全国平均並みにする。 ◆補強が必要な力の分析 持久力を育成する体育の充実	B	○スポーツテスト時に、全国平均を示しそれぞれが目標を設定して取り組む。 本年度重点として取り組んだ持久走は4/12学級で全国平均を超えたが、まだ全国平均には届かない種目がある。	引き続き、来年度も持久走を重点として取り組んでいく。体育の授業前に必ず持久走を取り入れる。	体力作りに向けて、引き続き指導をお願いしたい。	B
	②命を守る訓練の計画的実施 ◆昨年度とは違った想定での訓練を実施する。 ◆防災教育講演の実施 10/6 村岡直道氏	A	○火災、地震、避難道の変更、放送機器が使えない場合の訓練休み時間の訓練等、毎回想定を変えて年間4回実施した。職員がねらいを自覚して指導し、意義ある訓練となった。	来年度も想定を変えて実施する。特に、地震時の危険回避能力を身につける。	このまま工夫のある取組をお願いしたい。	A
	③施設設備や安全点検など校内安全体制の見直し ◆けがのない安全安心な学校 ◆廊下歩行など落ち着いて生活をし校内で発生するけがを減らす。	A	○丁寧に点検をして、修繕箇所を指摘することができている。また担当と校務員が連携して、素早く修繕することができている。 ○けがは年々減少している。	担当と校務員の連携を引き続き行い、安全安心な学校づくりをしていく。廊下歩行の改善に力を入れる。	廊下歩行に力を入れることで、さらに落ち着いた学校生活にしてほしい。	A
	④登下校時の交通安全の取組と地域の協力 ◆交通事故「0」を目指す。児童アンケート「交通安全に気を付けて登下校しているか」90%、職員80%	B	・児童アンケート「交通安全に気を付けて登下校していますか」92%に対して児童の意識と教師の意識に差がある。 ○地域の旗当番の方や見守り隊の方はよく協力して下さっている。 ○一斉下校時の担当教諭からのタイムリーな指導を効果的に行う。リーダー指導、登校班指導など、全職員で早期指導をしている。	「自分の命は自分で守る」危険予測能力・危険回避能力をつける。 地域の協力を引き続きお願いしていく。 職員の登下校見守りを強化していく。	登校班長の指導、登校班指導など、問題が大きくならいうちに指導の手を加えていく。 危険箇所、心配な登校班など、職員の下校指導を強化していくことで未然に防いでいく。	B
【学校関係者評価を受けての学校の改善策】 ・登下校の安全について、さらに指導する。（危険回避能力・危険予測能力）						
働き方改革	A	画面上に時間外勤務合計時間が表示されることもあり、月60時間を意識して勤務できている。	勤務の適正化に向けて、さらに工夫・改善を図っていく。	全職員が意識することで、来年度も残業時間60時間以内を目指していく。	A	